

令和2年度 第1回 垂水市総合教育会議

1. 日 時 : 令和 2年 11月9日(金) 13:30 ~ 14:30
2. 場 所 : 垂水市市民館2階 大会議室
 1. 開 会
 2. 市長あいさつ
 3. 協 議
3. 会 次 第 :
 - (1) GIGA スクール構想について
 - (2) 意見交換
 - (3) その他4. 閉 会
4. 出 席 者 : ・尾脇市長 ・坂元教育長
・田原教育委員 ・葛迫教育委員 ・田之上教育委員 ・福里教育委員
5. 教育委員会
同 席 者 : ・鹿屋教育総務課長 ・今井学校教育課長 ・紺屋社会教育課長 ・米田国体推進課長
6. 傍 聴 者 : なし
7. 事 務 局 : ・二川企画政策課長 ・園田課長補佐 ・瀬戸口政策推進係主事

企画政策課 … 皆さんこんにちは。
二川課長 定刻になりましたので、ただいまから、令和2年度第1回垂水市総合教育会議を開会します。本日の会議の進行を務めさせていただきます、企画政策課の二川と申します。よろしくお願いたします。

本会議は、市民の皆様への説明責任を果たすとともに、その理解協力の下で教育行政を行う趣旨を徹底するため、原則として公開で行うこととされていますので、よろしくお願いたします。

それでは、はじめに、尾脇市長からあいさつをお願いたします。

尾脇市長 … 皆様改めまして、こんにちは。教育委員の皆様方には、日頃から教育行政の基本方針や重要事項を審議いただくとともに、本市の教育関係の諸行事・学校教育活動への助言等を賜り、コロナ禍ではございますが、教育の現場が停滞することなく常に前に進めていただいておりますことに感謝申し上げます。

さて、今日(こんにち)の日本は少子高齢化による様々な問題に対応していくため、地方創生を掲げ、地方の活性化のため、また課題解決のため、日々取り組んでいるところでございますが、この地方創生を実現していく上で、重要な原動力となるのは、「人」でございます。

垂水市の将来を考えた時に、最も重要なもののひとつが、人づくり、「教

育」であると考えております。

今年度は、コロナ禍の中、4月から5月にかけて小・中・高等学校で一斉の臨時休校となり、その後の教育活動にも様々な支障をきたしていると同っております。

ウィズコロナの時代、いろいろな教育課題があると思いますが、「GIGA スクール構想」は、令和時代のスタンダードとして、学校の ICT 環境を整備し、公正に個別最適化され、創造性を育める学びの場の実現に向けて、教育界の最重要課題であると認識しております。教育の大きな転換点を迎えていると言っても過言ではありません。

本日は、垂水らしい「GIGA スクール構想」について理解を深めていただき、1人1台の端末を効果的に利用しながら、今後、学校の授業がどのように改善されていくのか、また、子どもたちの学びがどのように深まり広がっていくのか、その具体的な内容をお伺いをして、意見交換を行うよい機会となれば幸いです。

「GIGA スクール構想」の推進により、垂水の教育がさらに充実し、子どもたちの成長へとつながるよう、教育委員の皆様の忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

と、ご準備をいただいたのですが、私自身の現状について少しお話をしたいと思います。

まず本来であれば東京オリンピックでありますとか、鹿児島国体などで大変賑わって、子どもたちもいろんな意味で活躍の場があった時期だと思いますけれども、日本に限らず世界的にコロナということで、いろんな意味で振り回されている状況がございます。このことはやむを得ないことであって、この先のコロナをクリアした以降のことを見据えながらしっかりと子どもたちの未来を作っていくなければいけないという風に考えております。

コロナに関しましては安全対策として発生当初に、子どもたちを含めた全市民にマスクの配布をさせていただきました。また、インフルエンザの流行るこれからの時期に関しましては、市民の皆様にとしっかりと支援ができるように補助をさせていただいております。また、PCR 検査の体制も整いましたので、これまで鹿児島市に発注しないといけないということもあり、2日間かかっていたところが、45分でできるということで、これもタイミングよく10月からのスタートでありますけれども、早い段階で申し込んで、ぎりぎり鹿児島市と垂水市だけ間に合ったという現状でございまして、世界的になかなか難しい状況が続いているようであります。また、関連する子育て支援ということに関しましては、妊産婦の皆様方にネットワークを通じながら診断、アドバイスができるように構築をしているところでございます。

また、一方の経済対策におきましては、第一弾、第二弾ということでお手元にも届いたと思いますが、1万円で2万円、プラスでブリ・カンパチということで3,000セットの準備をいたしましたけれども、まだ締

め切りを前にして 4,000 を超えておりますので、そういった意味ではしっかりとコロナ禍ではありますけれども経済を支えて、あるいは市民の皆様も含めて支援をしていかないといけないと思っております。

また担当課のほうで頑張っていていただいております学生さんたちにも垂水のふるさと便ということで第一弾を送らせていただきまして、近々第二弾ということで、外出のできない中で、非常に高い評価をいただいている、喜んでいただいているというところでございます。

コロナ禍の中で悪いことだけではありません。「GIGA スクール構想」の前段でありますインターネットの整備、なかなか垂水市として遅れていたわけではありますが、中央地区はある程度整備されていたわけですが、牛根のエリア、あるいは柘原・新城エリアは未整備でございました。予定では令和4年度までになんとかしないといけないということだったわけですが、コロナの国からの支援をうまく活用する形で令和3年度までに整備がほぼ終わるということで、これに合わせて「GIGA スクール構想」というのもいろんな意味で形にできるのではないかと考えているところでございます。様々な状況がございますが、忌憚のないご意見を賜ってどうか実りある会になりますことを祈念しまして、ご挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。

企画政策課 … それでは、協議に入りたいと思います。
二川課長 … ここからの協議事項に関する進行につきましては、尾脇市長にお願いしたいと思っております。よろしく申し上げます。

尾脇市長 … それでは、まず、協議事項（1）GIGA スクール構想について、学校教育課の説明をお願いします。

学校教育課 … 皆様、こんにちは。これから、本市の「GIGA スクール構想」につきまして、説明させていただきます。私は、教育委員会学校教育課、主幹兼指導主事の田畑でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、文部科学省の「GIGA スクール構想」につきまして、説明させていただきます。文部科学省は、昨年12月、全ての児童生徒の「1人1台学習端末」と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する、いわゆる「GIGA スクール構想」の予算を、補正予算に計上いたしました。この「GIGA スクール構想」は、新たな未来社会であるソサエティー5.0時代を生きる子供たちに相応しい、誰一人取り残すことのない、公正に個別最適化され、創造性を育む学びを実現することを目標としております。この「GIGA スクール構想」には、「校内通信ネットワーク整備事業」と「児童生徒1人1台学習端末の整備事業」の、2つの事業が含まれております。

それでは、校内通信ネットワーク整備事業につきまして説明いたします。校内通信ネットワーク整備事業は、学校施設に、新たに児童生徒1人1台学習端末の利用を可能とする、高速大容量の通信ネットワークと、端末を収納する充電保管庫を整備する事業でございます。通信ネットワークを高速大容量化する理由は、学校における児童生徒の学習活動に快

適なネットワーク利用環境を提供するためであります。具体的に申し上げますと、今後の学習端末が、インターネット上の学習サービスを受ける、いわゆるクラウドベースを基本としていくために、多くの児童生徒が一斉にインターネットに接続しても、通信がパンクしてしまわない大容量のネットワークを整備していく必要があるということでございます。

続きまして、児童生徒1人1台の学習端末の整備事業につきまして説明いたします。公立学校に関しましては、児童生徒数に対して1台あたり4.5万円の補助が出ることになっております。補助対象は、児童生徒数の2/3が補助金額の算定基準でございますので、残り1/3の端末につきましては、自治体の負担でございます。当初は、令和5年度までかけて、学年別に段階的に整備する予定でございました。ところが、新型コロナ拡大防止のため臨時休校措置が長引いたことから、ICT環境の一刻も早い整備が必要となりました。そこで国は、令和2年度第1次補正予算で2,292億円を追加し、整備の前倒しを各自治体に要請しました。このことから、本年度の予算で、すべての児童生徒に1人1台の学習端末を配備することが可能となりました。

それでは、「GIGAスクール構想」が提唱された背景につきまして、説明いたします。まず、冒頭のスライド説明で申し上げました、ソサエティ5.0につきまして、説明いたします。ソサエティ5.0とは、国が提唱する未来社会のコンセプトのことでございます。狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会といった、人類がこれまで歩んできた社会に次ぐ第5の新たな社会のことを、デジタル革新と、それによる新技術を最大限活用して実現するという意味で「ソサエティ5.0」と名付けられております。この、未来社会を生きていく子供たちに、1人1台の学習端末や高速大容量の通信ネットワークといった教育環境を、自治体間の格差なく、身体的制約や言語的な課題を持つ人を含め、まんべんなく行き渡らせるという取組が、「GIGAスクール構想」と言えます。

一方、国際調査によって、日本の学校は諸外国に比べてICT活用が遅れていることが明らかになったことも、GIGAスクール構想提唱の背景になっております。ご覧のグラフは、2018年PISA調査の質問調査における、1週間のうち教室でデジタル機器を利用している時間につきましての調査結果を、日本の児童生徒と、OECD加盟国の児童生徒とで比較したものです。赤枠で示したものが日本の結果です。このグラフから、日本の児童生徒が学校でデジタル機器を利用している時間は、OECD加盟国の児童生徒に比べ、かなり短いことが分かります。

画面は変わりました、ご覧のグラフは、同じく2018年PISA調査の質問調査における、学校外での平日のデジタル機器利用状況につきましての調査結果を、日本の児童生徒と、OECD加盟国の児童生徒とで比較したものです。左のグラフが、学校外でのデジタル機器の学習利用状況を、右のグラフが、ネット上でのチャットやゲームでの利用状況を示してお

り、帯グラフが日本の児童生徒の結果で、赤い囲みの中の、黒い星印が OECD 加盟国の児童生徒の結果でございます。このグラフから、学校外でのデジタル機器の利用につきましては、コンピュータを使って学習をする頻度は低い反面、ネット上でのチャットやゲームでの利用が多過ぎることが分かります。この調査結果から、日本は国際的に見ても、教育 ICT 化が遅れており、環境整備が急務であることが、今回の「GIGA スクール構想」の提唱につながっております。

それでは、垂水市における「GIGA スクール構想」の実現につきまして、説明いたします。教育委員会では、『垂水らしい「GIGA スクール構想」の実現へ』向け、4つの目標を立てております。教科指導等における ICT の更なる効果的な活用により、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うとともに、垂水の児童生徒にとって学習の基盤となる情報活用能力を育成すること。1人1台の学習端末を、あれば便利な特別な道具ではなく、調べたいこと、記録したいこと、表現したいこと等があるときに、いつでも自由自在に使える、問題解決のための必須の文房具となると捉え、『端末持ち帰り』も視野に入れた『端末の文房具化』により「学びの改革」を目指すこと。1人1台の学習端末を、個別学習、一斉学習、協働学習、それぞれの形態での学習の中で効果的・適切に使用する経験を重ねることで、垂水の児童生徒が、これからの社会において求められている力を身に付けるための基盤を培うこと。小規模校が多い垂水市の学校において、機器の双方向性を活用することで、市内のどの学校同士であっても交流学習が可能となることから、学級・学校を越えて、多様な考えに触れながら学習を深めること。これらの目的のもと、現在、教育委員会において、校内通信ネットワーク整備事業と、児童生徒1人1台の学習端末の整備事業を進めております。

まず、校内通信ネットワーク整備事業につきまして、説明いたします。

垂水、水之上、協和、新城、柗原小学校及び垂水中央中学校の6校につきましては、普通教室、特別教室及び体育館に、高速大容量ネットワークを整備してまいります。具体的には、校内 LAN ケーブルを現在の1ギガから、文部科学省から標準仕様として示されている10ギガへ回線を増強するとともに、校舎はもとより体育館等でも使用できるよう、無線アクセスポイント数を現在の21個から107個に増加するなど、校内通信環境の整備を図ってまいります。

なお、光ブロードバンド回線の未整備地域である、牛根、松ヶ崎、境小学校につきましては、モバイル Wi-Fi ルーターによる、通信環境の整備改善を進めてまいります。また、同時に、1人1台学習端末を収納する充電保管庫を設置いたします。購入費、設置にかかる電源工事費とも、国の1/2補助対象でございます。

次に、児童生徒1人1台の学習端末の整備事業につきまして、説明いたします。市内小・中学校全児童生徒に対し、1人1台学習端末を整備いたします。内訳は、小学校571台、中学校281台でございます。また、

同じく市内小学校学級担任、中学校教科担任に、指導者用端末を1台ずつ、計73台を整備いたします。

さらに、今後、授業はもとより、交流学习や遠隔学習、端末の持ち帰り等によって活用場面が増えることが予想される、大型液晶ディスプレイとディスプレイ用スタンド、高性能 Web カメラ、集音マイク等、必要な周辺機器につきましても、1人1台学習端末を、学習における効果的な場面で活用できるよう、併せて整備いたします。国からの補助対象は、学習端末につきまして児童生徒数の2/3の台数が補助対象でございますので、残り1/3の学習端末と指導者用端末、設定・保守費用、ソフトや周辺機器につきましては、本来であれば自治体の負担となります。しかし垂水市におきましては、国の補助対象外の端末や設定・保守費用、ソフトや周辺機器は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金で充当予定でございます。

1人1台学習端末の購入に関する、業者の選定にあたりましては、県内36の自治体が参加した、県教育委員会による共同調達により購入いたします。これにより選定された業者と打ち合わせた結果、導入する端末は、画面に示しております、富士通のモデルに決定しております。メモリが8ギガと性能が高く、キーボードが脱着可能なデタッチャブル型で、タッチペンが付属するモデルとなります。また、頑丈な設計であるため、児童生徒用の机程度の高さから落とすくらいでは、破損しない耐久性も備えております。また、学習に必要なソフトにつきましては、今後の学習端末が、インターネット上の学習サービスを受ける、いわゆるクラウドベースを基本としていくために、ソフトではなくコンテンツと呼ばれます。主な導入コンテンツは、授業映像や問題集を搭載した自学教材「イーボード」、授業を記録する「バンショット」、授業中にインターネットを通して児童生徒同士が情報共有をしながら学習を行うためのシステム「ロイロノート・スクール」、そして、後ほど説明いたしますAIドリル「ナビマ」などです。なお、通信ネットワーク・1人1台学習端末、どちらにつきましても今年度中に整備を完了し、令和3年4月から本格的に使用を開始します。

1人1台の学習端末を効果的・適切に使用することで、個別学習、一斉学習、協働学習、それぞれの形態での学習の幅が、今後大きく広がっていきます。

ここからは、個別学習、一斉学習、協働学習、それぞれの形態での学習の幅が、今後どのように変化していくのか、説明いたします。

個別学習の場におきましては、これまでの授業では、同時に同じ内容の学習をする授業を行うものの、一人一人の理解度等に応じた学習が困難でしたが、これからの授業では、AIドリル等の活用による、児童生徒一人一人のニーズや学習状況に応じた課題の配布や、個別の学習状況のリアルタイムでの把握など、学習の個別最適化が実現できるようになり、学びというものが大きく転換いたします。この他、個別学習においては、

インターネットを用いた情報収集、写真や動画等を活用した取組が増加するとともに、デジタル教材を活用した授業を、さらに展開できるようになります。

ここで、先ほど申しあげました AI ドリルにつきまして、説明いたします。AI ドリルは、正しくは AI 型ドリル教材と申します。1 人 1 台学習端末環境で、個々の児童生徒の理解度・特性に合わせた個別最適学習を提供することが可能です。算数・数学・理科等の教科で、児童生徒の解答内容から、人工知能である AI が自動採点し、理解度を判断します。誤答の場合は、どこが苦手なのかを解析し、苦手を克服する問題が自動的に配信されます。正答の場合は、さらに学習内容の理解を深めるための推奨問題が自動的に配信され、より深い定着へと導きます。このように AI ドリルは、一人一人の理解を助ける最適な出題で、児童生徒の学びを支援する教材でございます。垂水市では、今回の 1 人 1 台学習端末導入に合わせて、他市町に先駆けてこの AI ドリルを導入・整備し、児童生徒の学力向上に役立ててまいります。

これまでの授業における一斉学習の場では、教師が黒板等を用いて説明することで、児童生徒の興味・関心・意欲を高めることは、ある程度はできておりましたが、これからは、定理や史実等をデジタル教材で可視化・共有化したり、授業中に一人一人の反応や考えを把握し、次の指導に生かしたりするなど、これまで学校で行われていた学びが、大きく深化いたします。また、学習に必要な資料を瞬時に児童生徒の端末に配布したり、児童生徒の課題に対する反応を瞬時に回収・一覧表示したりするなど、双方向型の学習が実現できます。

先ほど、導入コンテンツのところで紹介いたしました「ロイロノート・スクール」は、授業中にインターネットを通して児童生徒同士が情報共有をしながら学習を行うためのシステムです。一人一人の児童生徒がタブレット端末を持ち、そこに示された課題に個人やグループで取り組み、その結果を提出します。提出された課題は児童生徒同士で、画面上で共有することもできますので、この双方向型の一斉授業の実現に、大きく役立ちます。

少し画面の文字が小さくて見づらいのですが、これは、「ロイロノート・スクール」において、生徒から提出された意見を画面上で共有しているところです。中学校国語の授業で、吉野弘の詩、「夕焼け」の登場人物の中で一番批判されるべき人物について、ディスカッションを行ったところです。生徒は自分の発言をキーワードにして、ロイロノートで提出します。そのキーワードをロイロノートの画面で繋げていくことで、生徒全員の考えが深まっていきます。

さらに、小規模校が多く、小規模校同士の交流学习が多く展開されている垂水市の実情から、機器の双方向性を活用した交流学习は必須のアイテムです。今回の回線の増強と機器の更新により、垂水市内の小規模校同士はもちろん、小規模校と垂水小・水之上小・垂水中央中など、市

内のどの学校同士であっても音声・映像を使った交流学习や遠隔学習が容易になり、学級・学校を越えて、相手の顔などが見えるようになるとともに、多様な考えに触れながら学習を深めることができるようになります。画面上の3枚の写真は、牛根小・松ヶ崎小・境小の3校交流学习における国語科授業「おすすめの本の紹介」の様子です。現在、小規模校を中心に、交流学习や遠隔学習に向けて、準備と試行を行っているところです。

これまでの授業における協働学習の場では、グループ発表をさせることは可能であっても、一人一人の意見を発信・共有するような授業展開が難しいとされてきました。その理由は、意見を発表する児童生徒が限られてしまうからです。これからは、いつでも何度でも修正可能なかたちで、同一のファイルを、グループで同時進行的に共同編集・制作したり、互いに修正可能なかたちで、それぞれの多様な意見を即時に共有したりするなど、全員参加で役割分担できる協働学習が実現できます。

協働学習の場につきまして、さらに具体的な活用場面としては、例えば、学習端末を活用して、写真・動画等を用いた資料・作品を、グループで分担したり、協働で作業しながら制作したりすることが挙げられます。また、グループ内で役割分担し、同時並行で作業することにより、他者の進み具合や全体像を意識して作業することが可能となります。さらに、写真・動画等を用いて作品を構成する際、表現技法を話し合いながら制作することにより、子供たちが豊かな表現力を身に付けることが可能となります。

これまで説明してまいりました、今回導入する1人1台学習端末の新しい機能を、児童生徒が使いこなすことができるようになるためには、まずは教師が授業展開や操作方法を学んでおく必要がございます。

そこで、市内小・中学校管理職並びに教諭等の代表からなる、「垂水市GIGA スクール構想推進委員会」を組織しました。9月に第1回の会合を持ち、文部科学省のICT活用教育アドバイザーでもある、県総合教育センターの木田博情報教育研修係長を招聘した研修を行ったところです。

今後も、ICTに精通した講師を招聘した研修や、授業実践事例の収集や研究・実践等を通して、1人1台学習端末を活用した授業展開や操作方法等につきまして、市内全小・中学校の先生方への普及に努めてまいります。

GIGA スクール構想は、学校教育に大変革をもたらすと言われております。言い換えると、授業が大きく変わります。

今回、予算を認めていただいて整備を進めておりますGIGA スクール構想による高速大容量通信ネットワークと、1人1台学習端末を、垂水市内の全ての教師が、そしてすべての児童生徒が、授業の様々な場面で効果的に活用していくことで、授業をよりよく変化させるとともに、垂水の児童生徒を誰一人取り残すことなく、力を最大限伸ばしていき、学力を向上させる教育、『垂水らしい「GIGA スクール構想」の実現』をめざ

し、各学校と一体となって、努力してまいります。

以上で終わります。

尾脇市長 …… ありがとうございます。ただいま、学校教育課より説明がありました。冒頭のごあいさつでも申し上げましたけれども、垂水の未来を考えたときに子どもたちにおける教育環境として、これは重要なんだということで、垂水の特徴の一つに非常に縦長で自然豊かであることが挙げられますが、一方で教育環境におきましては情報、あるいはそれを入手する方法という意味ではいまひとつであったのですが、今回コロナという環境下の中で、本来であれば 1/3 は手出しという部分もうまいかたちで対処できて、しかも令和3年度からスタートできる環境が整いましたことは非常に良かったと思います。ピンチをチャンスというかたちになったと思います。先ほどの中でもありましたように、子どもたちがこなしていく前段としては先生方への普及という話もありますので、その辺も含めて教育委員の皆様方からご意見をいただきたいと思います。今の説明につきまして、ご意見・ご質問があればお願いいたします。何かありませんか。

田原教育委員 …… 先ほどもピンチをチャンスにとありました。コロナを活かすタイミングで進んでいくことは非常にいいことだと思います。まず授業のやり方が今までの授業に比べて深化し、個別化もできるし、それから双方向性の授業ですか。瞬時に子どもたちが思っていることを先生が受け取れるということで、どんどん充実した授業ができていく。それから子どもたち同士で友達がどんな考えを持っているのか、これも瞬時にわかる。そういう意味で今までにない授業の良さというのがあるのかなと思います。授業のやり方が広がっていくのではないかということで、そういう面では非常に期待ができるのではないかと思う。あとで心配な部分を言いたいと思います。

尾脇市長 …… どうですかね。質問みたいな時にはお答えいただいて、今の発言はご意見だということだと思うので、またご質問の時にはお話をいただければと思います。

他にございますでしょうか。

葛迫教育委員 …… 現代社会がどんどん、時代の流れというのか。最初は狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会、スマート社会。時間がどんどん速まってきているような社会の中で、子どもたちが時代にマッチした勉強方法になっていくと思うのですが、その「GIGA スクール構想」の中で子どもたちが一生懸命頑張っても我々大人がなかなかついていけない部分があると思うのですが、そこをどういうふうに伸ばしていくのかを知りたい。

学校教育課 …… 教師が「GIGA スクール構想」における一人一台端末を使いこなしていくことになろうかと思うのですが、今後も「GIGA スクール構想」推進委員会を中心にして研修をしていきます。また来年度になりましたら、実際に機器が手元にありますので、例えば集合型の研修であったり、各学

校での構内研修であったり、そういうものを進めていきまして教師の活用力を広げていければと思っております。あとは子どもたちの文房具として扱いますので、例えば教師が使い方を知らなくて、子どもたちが知っている場合もあります。現に、今配備している学校用パソコンにしても、子どもがよく知っていて、教師が教えてもらったという話もありますので、子どもと教師とで一緒に作り上げていく場面も今後出てくると思います。

尾脇市長 … 余談ですが、葛迫教育委員がおっしゃったように光と影と言いますか、心配な事と良い事と。スピード感が増してというのは不安な部分ですね。ある程度これは生き残るためのと考えると大変なのですが、よりよく生きるためのツールということで活用の方法によっても全然広がるという風に思います。この間、大阪都構想とありましたが、あの中で20代、30代、40代というのはネットなんですね。ネットを見ているんな情報を集めて判断をしていく。良い悪いではなく、60歳以上の方はテレビからの情報ということです。今、いろんなテレビの情報だとかもいいのですが、必ずしもそれが正しいかは別の問題で、国際化社会とかこれからを生きるという意味ではいろんな情報を垂水にいながらキャッチできたり、またそういう情報を使って、先ほどもお話がありましたが子どもたちの方が使い方を知っていたりするので、むしろ指導者の皆さんがしっかりとついていって頑張っていたいただくことの方がポイントだと肌感覚では思っているところでございます。

他にどうでしょうか。

田之上教育委員 … メリットとしては勉強ができる子を伸ばしていけることはすごく大きなメリットだと思います。学校教育はどうしても平均的なことを、遅れている子たちの底上げがあるので、できる子が伸びていくことはメリットだと思います。その反面、使いこなせる子、使いこなせない子の格差がどうしても生まれてくると思います。最初の導入の段階では、先生方もそうなのですが、子どもにも負担はあるので、担任一人でカバーしきれぬのか、できないときに他の教員が補助に入るとか支援ができるのかという心配もあります。

それと教育界では「対話的な学習」というのをよく言われている中で、ネット上で対話をするということになるわけですが、生きていく中でどうなのかなと、ちょっと心配はあります。

尾脇市長 … 数学と一緒に足し算引き算ができないと掛け算割り算が。そのところがある意味止まってしまうというか、自分の体験からあるのですが、初動の部分はある程度、基礎的なものはみんなできる。その中で伸びゆく人たちは良いのだろうけど、そこで取り残しがないようにしっかりとしないといけない。その部分も含めて、先生たちも含めてしっかりと最初基礎的なものをしっかりとやって、みんながどんどん伸びていくようにするのだと思いますけれども、その変な差になってはいけないというご指摘だと思いますので、そのところもご配慮いただきたいと思っております。

他にどうでしょう。

福里教育委員 …… 実際自分の子どもが使うとなると、今日その話題を家族としたのですが、上の息子はすごく喜んでいました。下の子はあまりわけがわかっていない感じだったのですが、そういう社会になっていくにあたって、自分の子どもにそういう機械が与えられることはすごくうれしいことなのですが、心配なことはやっぱり持ち帰りになったときにどうやって持って帰ってくるのか。もしバックに入れて持って帰ってくるのであれば無くしたりすることがないか。それと壊したりしないか。そういうのだけが心配で、あとはそういう機械が与えてもらえるだけで幸せだなと感じます。なかなか今、授業参観を見に行き手を挙げる子が少ないとすごく感じていて、自分の意見をなかなか言えなかったり、思っていることを言えなかったり、あと授業でよそ見をしていたり、あくびをしていたりしている子が多い中で、自分の意見を書いてぱっと出るならそういうのもいいのかなと思ったりするけど、やっぱり自分の意見が言えなくなるという心配はないのかなというのがあります。

尾脇市長 …… そのところの管理というのはどうですか。

学校教育課 …… 管理につきましては、まず使用上のガイドラインを策定する予定です。それと子どもたち向けのルール作りも大事だと思いますので、それも合わせて作成していこうと思います。

あと保護者の方にこういった理解を求めるためには、個人的な意見なのですが、授業参観後の学級 PTA で集まるときに1人1台端末を保護者の方も実際に操作してみればいいのかというのも思っています。そのことが子どもたちはこういう機械をこのように使って勉強をしていくんだな。そのためには示されたルールを守ることや、示されたガイドラインに従って、子どもに使用するよう家庭で指導することも大事なんだということがよりよく理解できるのではないかと思います。

尾脇市長 …… ちょっと聞いてもいいですか。いわゆる iPad だったり、今回のタブレットは教育の情報だけが集まったものになっているのですか。それともいろんな情報も集まるようになっているのですか。

学校教育課 …… いろんな情報も入れることもできますが、有害なものはフィルタリングをかけています。

尾脇市長 …… そういう意味では保護者の皆さんは子どもさんのそういう状況を理解して、ある程度共有しておくといいですね。先生もそうですが、このツールとしては良いことなのですが、一方の心配事を解消していく意味では多くの目で見守っていく環境整備は大事なのかなと思います。

坂元教育長 …… 「GIGA スクール構想」というと1人1台の端末をあたかも一定時間使えばなしというイメージがあるのですが、そうではないんですね。効果的、効率的な場面で使いましょう、というのが趣旨だと私は思います。ですから、授業の導入の段階で動画を見せて、授業に集中させるとか、あるいは山場の部分で子どもたちの意見がリアルタイムで出てくるとか、まとめの段階でそういう意見のいいところをつなぎ合わせてまと

めていくとかですね。いろんな使い方が場面場面であると思うんです。ですので、心配されている対話、いわゆるそのフェイスフェイスの対話、そういったのも大事にしながら、かつタブレットの有効場面を子どもと先生とで作り上げていくことが大事なんでしょうね。

一番大事なことは、「これいいよね」という良さとか便利さを子どもも教師も保護者も実感しないとこれは本当に文房具とは言えないと思います。そこまで落とし込めるかどうか非常に大事だと思います。そういう中で先ほども市長もおっしゃった、これをはき違えるととんでもないことになるのですが、あくまでも「ツール」です。使うことが目的ではなく、これは使って学びを深めるとか、あるいは教師の場合でいうと授業の質を上げる。そういうことなんですね。目的と手段を取り違えないといけないというのもまた大事なことなのかなと思います。

とにかくいろんな方々が関わりながら、子どもたちを守りつつ、1人1台のタブレットの良さを実感させながら学力と合わせて情報活用能力を高めていく。そういうふうな構想を推進していきたい。特に37キロ、8キロある私どもの市にとっては、学校間交流は非常に生命線になってくると思います。小学校と中学校の交流があっても私はいいと思っています。大きな学校と小さな学校の交流があってもいいと思います。いろんなところをまた仕掛けていながら、フルに使っていきたいなと思います。

その中で私の頭の中によぎるのは不易と流行です。これは流行の部分ですね。流行の部分なのですが、実は一方からみると不易の部分でもあります。例えば、福里教育委員が先ほどおっしゃった、ものを言わない子がもっと言わなくなるのではないかということについては、やっぱり書かせるということが大事なんですね。とにかく自分の考えを書かせる。書かせることは表現であり、それが一目瞭然で画面に出ますので、そういうことに慣れさせる。そして、「情報を共有し合うことはいいよね」というふうな授業展開に持っていく。ということはやっぱり教師の授業構想力、これが問われますね。どうやって効果的にタブレットを使って組み立てていくのかという授業構想力が問われると思っています。

尾脇市長 …… 非常にそこだろうなと思います。ないよりあったほうがすごくいいわけで、どう使いこなすかという意味では指導される先生方はかなり頑張っていたかかないといけないなと思います。スタートが大事なので、ぼちぼちではなく初動に力を入れて、風車を回すがごとく勢いよく回っていけるようにいくことが大事なんじゃないかなと思います。

田原教育委員 …… 教師の構想力、これももちろんだと思います。それを推進していくために、今回の場合、コロナで学校がずっと休みだった。その中で先生たちも早く何とかしたいという中で生まれてきた。やっぱりそういう教師の必要性からそういうことが導入されたという意識を持つことからスタートしないと、教師の方から「新しいツールだから使ってごらん」と押し付けるのではないが、そういうふうな導入の意識を持つと、なかなか

使っていく人は使っていくが使わない人は本当に使わないことにならないかを心配しました。

もう一つは家庭の環境、情報環境を今後どう進めていくかということですね。子どもたちの意識と家庭の意識と、それから情報環境を行政としてどう進めていくか、考えていけないのかなと思いました。

葛迫教育委員 … 新しい教育のやり方が今後始まっていくと思うのですが、情報機器を児童も教師も親も一生懸命それに向かって慣れていく、勉強していくことによって教育の質も上がると思います。何かを成し遂げることは教育に関しても向上していくのかなと。みんなが一緒に一生懸命やれば結果が出てくるのかなと思います。

田之上教育委員 … 今お話を聞いて、やっぱり発表ができなかった子、手をあげられなかった子は最初の書き込む勇気がなかなか出ないのかなと思うのですが、その子たちが自然に書き込みができるようになると実際に手を挙げて発表ができる力につながっていくのかなと、お話を聞きながら思うところでした。

それとコンテンツを利用して授業をしたり、宿題をしたりするわけですが、その履歴はどの程度残るのですか。ノートの一部でもあるわけですよ。

学校教育課 … 例えばAIドリルで見ますと、すべての学習履歴はこの履歴にも残りませんし、教師も集約して見ることはできます。保存というボタンを押す場面もあるかと思いますが、ほとんどの学習履歴というのはそれぞれに残る形になります。

尾脇市長 … 質問なのですが、AIドリルは非常に効率的だと思うのですが、見て覚える、書いて覚える。どっちが効果的なのかとなった時に、我々も書いた方が覚える気がするものですから、ドリルでこなす方がいいのかというのはどうなのでしょう。

学校教育課 … 例えば漢字の練習、これは書いて覚えるべきですよ。ですのでどちらがより効果的かというところでICTを使う。それとも紙と鉛筆、あるいは黒板、チョークを使う。どちらが効果的かというところで教師が判断をして、あるいは自学自習の場合は児童生徒が考えて判断をしたり、あるいは判断の材料として教師が観点を与えるということも可能だと思います。

尾脇市長 … ありがとうございます。

福里教育委員 … うちの息子の場合は40人学級なのでなかなか発表する人は決まっています、人の意見を聞くことは子どもにとって大事なことだと思います。そうやってみんなの意見を聞き入れたりすることによって、先生に褒められる事よりも、友達に「すごいね」と言われる方がすごくうれしいということもよく聞くので、そういうのでいいきっかけになるのかなと感じました。

それからもし家に持って帰るのであれば、PTAでとお話があったのですが、なかなかPTAが集まらなかったりして、授業参観はいらっしゃるけ

ど PTA はいらっしゃらないことが垂水小の場合は多いので、約束、ガイドラインを作られるということですが、それを保護者にしっかりと行き渡るようにしていただけるといいなと思いました。

坂元教育長 …… 先ほどの市長からでたご質問ですけれども、書いて覚える、あるいは AI ドリルの有効性ですよね。それは教科の特性にもよるのかなと思います。担当から説明のあった AI ドリルで算数・数学という教科が出ましたけれども、これなどはコンテンツを利用したほうがいいですよ。ただし、先ほどから出ている書くこと。しっかりと国語力をつけるには、書くということは大事ですよ。そういうところを見極めながら使い分けをしていく必要があるのかなと思います。それと PTA を含めての徹底ですけれども、やっぱり市 P 連の研修会のテーマとしても取り上げて、使い方・良さを含めて取り上げるべきなのかなと思います。それで講師を招いたり、実際にされている先生方の生の声をその場で提供してもらったり、ある程度そこに合わせて一緒に作っていく部分が大事なのかなと思います。これはいわゆるスマホ・ゲームの使い方にもつながるのかなと思います。そこでどうブレーキをかけられるのかということも合わせて指導できる良い機会なのかなと思います。

このスクール構想をうまく使いながらゲーム・スマホへの切り口も私は策定したいなと思っているところです。以上です。

尾脇市長 …… ありがとうございます。ぼちぼち時間ですので最後に一言だけ。

メリット・デメリットあるかと思えますし、よりメリットを大きくしていくためにどうするのかということだと思っておりますが、大きなところでは時代の流れですので、この流れに乗っからないわけにはいきませんので、もれなく保護者の皆さんも含めて、この流れに乗られるように、ピンチがチャンスになりましたが、もっとチャンスになるようなことになると田舎で暮らすとか、いろんなことにもつながっていく気がしますので、先ほど教育長が「文房具だ」という風におっしゃいましたので、うまく使い分ける。聞けば聞くほど大事だなと思うのは、指導する先生方の力量がますます問われるなど。これまで教師生活何十年、確固たるものがあつたものを中身は変えずにツールとして変えていかないとそこに遭遇した子どもたちの不幸とまでは言いませんが、人によるということになりますので、そこは先生方もしっかりとご理解いただいて、その環境を作るためには研修の機会をもっと増やして、最初が大事ですので最初の部分に集中的に研修をしていったりしながら使いこなせるようになったら楽しいことのほうが多いと思いますので、世界も広がりますからそのような形で進めていただければという風に思うところでございます。

他にございませんか。

ないということでございますので、「GIGA スクール構想」については了承していただくということでよろしいでしょうか。

(はい。の声)

ありがとうございます。では次の（２）意見交換に移りたいと思います。特にテーマは設けておりませんので、自由な意見交換をお願いいたします。

田原教育委員 … 雑談になりますが、良いですか。

育成会の子どもたちが、日曜日に千本イチョウの草払いがあったのですが、なんと今年は61人、子どもが40人近く参加しました。大人は草払い中心なのですが、子どもたちは片付けをしたりしてくれて、地域の中でボランティアを子どもも親も一緒になって良いことだなと思い、報告したくて報告しました。

尾脇市長 … ありがとうございます。

いろんな意味で、皆さんの知っているところでこれから時期ですので、大きな台風も来ていませんので、多くの方々がコロナ禍の中で逆に外なのでいっぱいいらっしゃるのではないかと思いますので、市としてできることは頑張りたいと思います。

他にどうでしょう。

無いようでございますので事務局のほうへお返ししたいと思います。

企画政策課 … ありがとうございます。
二川課長

では（３）その他に移りたいと思いますが、何かございますか。

ございませんね。それでは長時間でございましたがお疲れ様でございました。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

これをもちまして、令和2年度第1回垂水市総合教育会議を閉会します。ありがとうございました。